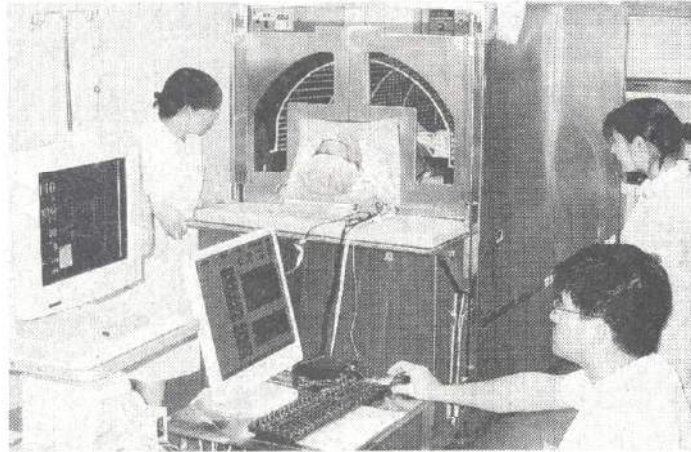


中津市の敬天クリニック



金城秀知院長



がんの全身温熱療法の治療の様子。患者は、全身に赤外線を照射する器具（奥）に入り、治療を受ける

42度超でがん細胞死滅

全身温熱療法を導入

保つ。血流が悪いがんの部位の温度は体温より高くなる。

治療中、患者は鎮痛剤で浅く眠った状態となり、心拍数、血圧、体温をコンピューターで監視する。

金城院長は「全身温熱療法は体への負担がほとんどなく、がんの痛みも緩和される。がんの発育を抑えたり、免疫機能や自己治癒力を高める効果もある。化学療法や放射線療法との併用も可能」と話している。

中津市の敬天クリニック（金城秀知院長）は、がんの治療に「全身温熱療法」を導入している。最近の研究で、がん細胞は温度が四二度以上になると死滅することが分かっている。全身温熱療法は、このがんの特質を利用した治療法。同クリニックは遠赤外線を全身に照射する特殊な器具を使い、患者の体温を約一時間かけて四〇度前後に上げ、その状態を一時間保つ。血流が悪いがんの部位の温度は体温より高くなる。治療中、患者は鎮痛剤で浅く眠った状態となり、心拍数、血圧、体温をコンピューターで監視する。金城院長は「全身温熱療法は体への負担がほとんどなく、がんの痛みも緩和される。がんの発育を抑えたり、免疫機能や自己治癒力を高める効果もある。化学療法や放射線療法との併用も可能」と話している。